

8月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
令和6年7月19日

「ある日常のひとこま」

校長 小笠原 雅和

先日、小学部のAさんがタブレット端末を抱えて一人で校長室に来ました。入室時には礼儀正しく深々とお辞儀をしてニコニコしながら私の方へ近付いてきました。何やら私に見てもらいたいものがあるらしく、タブレット端末の画面をスクロールしては指差します。

そこには某お菓子メーカーの「か〇ぱ〇〇〇ん」が表示されていました。二人で「おいしそうだねー」「食べたいねー」と話していると学級担任が来ました。聞くとそのお菓子をAさんは大好きだけど、東京や大阪でしか手に入らないものであるとのこと。そしてその東京に近々校長の出張があるらしいということで、「校長先生お願い！」の来室だったようです。

Aさんの期待にできるだけ応えたいと思いました。そして何より感動したのは入室時にお辞儀ができたことはもちろんですが、タブレット端末を使って自分の思いを一生懸命に伝えようとしてくれたことです。

コロナ禍において急速に進展したICT機器の活用ですが、特に大切な視点として「**情報活用能力**」が挙げられています。学習指導要領にも初めて位置付けられ「学習の基盤となる資質・能力」とされています。まさにAさんは、自分の大好きなものをタブレット端末で調べ、「欲しい」という思いを何とか校長に伝えようとしたのです。学習で身に付けた知識や能力を生活に生かす、まさに「生きる力」ですね。